

平成 28 年度事務事業評価表(一般事業・継続)

No. 392

事務事業名	地域公共交通確保維持改善事業
-------	----------------

作成日	平成 28 年 9 月 30 日		
部局名	商工観光部		
課名	商工振興課		
課長名	高取 和也	内線	240
担当者名	浦山 優	内線	248

基本目標	
政策	
施策	
関連施策	

会計	一般会計	
款	7	商工費
項	1	商工費
目	1	商工総務費
事業コード	030210	

事業類型	4	ソフト事業(任意)
個別計画		
重点事業		

【PLAN(計画)】

対象(者) 誰(何)に対して事業を行うか	公共交通機関		
意図 対象をどのような状態にしたいか	日常生活に必要な不可欠な交通手段の確保・維持等を長期的に実施する計画を策定することで、地域住民の環境に優しい安心・安全で利便性の高い生活交通を確保できるような地域公共交通体系に再編する。		
事業概要 意図を達成するために実施することは何か	次の計画を地域公共交通会議で策定する。 【H28年度】 ・地域公共交通再編実施計画策定 ※本事業は、地域公共交通会議(関係する行政機関、バス事業者、公共交通利用者等で構成され、地域における需要に応じた住民の生活に必要なバス等の旅客輸送の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議する組織)が国から補助金を受け取って実施するものであり、市は事務局として関与する。 諸般の事情により、平成30年以降に、地域公共交通網形成計画を見直し、その後、再編実施計画を策定する予定である。		
事業期間	平成 27 年度 ~ 平成 34 年度	実施方法	補助
根拠法令、要綱等	交通政策基本法、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱		
国・県補助事業に係る本市単独施策	有 大村市地域公共交通網形成計画策定事業補助金		

【DO(実施)】

指標名(上段:名称/下段:算定式等)		単位	25年度	26年度	27年度	28年度	備考	
活動指標	① 地域公共交通会議	計画値				4		
		実績値						
	②	達成度	%					
		計画値						
成果指標	① 地域公共交通計画策定	計画値				1		
		実績値						
	②	達成度	%					
		計画値						
	②	実績値						
		達成度	%					

年 度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	全体計画
① 事業費(千円)	0	0	0	7,840	0	0	0	0
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源				7,840				
② 人件費(千円)	0	0	0	5,047	事業内容	事業内容	事業内容	備考
職員人数(人)				0.56				地域公共交通会議が計画策定事業を実施する。
時間外勤務(時間)				210				
嘱託等人数(人)				0.30				
フルコスト(①+②千円)	0	0	0	12,887				

※財源内訳中の「その他」には、保険料・寄付金・基金・利用料等の収入を記入しています。

【CHECK(評価)】

<b>事業の進捗状況</b> 昨年度の評価から、どのような取組をしましたか(昨年度の【ACTION】の改善・改革の進捗等)	本年度、地域公共交通網形成計画を策定中である。今後、平成30年前後に木場スマートインターや市立大村市民病院のリニューアル、県立市立図書館のオープンなど大きく都市構造が変化していくことから、平成30年以降に地域公共交通網形成計画を基本とした再編実施計画を策定する。
<b>事業が抱える問題・課題等</b>	新図書館の建設や市民病院の建替え、スマートインターチェンジ開通を目前に控え、平成34年度には新幹線の開通も予定されていることから、こうしたハード等を最大限に活用したまちづくりができるよう、本市の公共交通を再構築していかなければならない。

妥当性	<b>【必要性】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	地域住民の日常生活に不可欠な移動手段の確保をはじめ、地域社会の活力の維持・向上を行うための計画であるため、必要性は高い。						
有効性	<b>【市の関与】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	市内全域について、面的な公共交通ネットワークを構築するため、市が関与することは妥当である。						
効率性	<b>【事業成果】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	日常生活に必要な不可欠な交通手段を長期的に確保・維持するための計画を策定することは、公共交通利用者の利便性の向上に寄与し、事業成果は高い。						
効率性	<b>【施策貢献度】</b>	高い	やや高い	やや低い	低い	該当なし	
	立地適正化計画と一体的に策定することにより、コンパクトなまちづくり、長期的に利用できる交通体系の形成ができるため、施策貢献度は高い。						
効率性	<b>【コスト】</b>	削減の余地なし		削減の余地あり		該当なし	
	経費は補助金のみであるため、コスト削減の余地はない。						
効率性	<b>【負担割合】</b>	見直しの余地なし		見直しの余地あり		該当なし	
	補助の割合は、概ね事業費の2分の1程度であり、その割合は適正であると判断している。						

※事業類型が1～3に該当する事業については妥当性及び有効性の評価は記入しておりません。

【ACTION(改善・改革)】

今後の方向性	その他の見直し
--------	---------

<b>内容</b> 今後の方向性のもとで、どのような取組をするか(課題や問題点等に対する取組など)	平成30年前後に木場スマートインターや市立大村市民病院のリニューアル、県立大村市立図書館のオープンなど大きく都市の構造が変化していくことから、都市整備部で策定中である立地適正化計画と整合性を図りながら、平成30年以降に本計画を基本とした再編実施計画を策定し、地域公共交通の再編を行っていく。
<b>効果</b> 事業の改善・改革によって期待される効果は何か	地域公共交通を再編していくことで、市民にとって利便性の高い公共交通が実現され、人口減少や高齢化社会の進展にも対応したまちづくりが実現される。

1次評価	今後の方向性	担当者意見のとおり		2次評価	対象外	今後の方向性
	終期設定				終期設定	
	意見等				内容	

※1次評価は事業担当課長等、2次評価は2次評価委員会によって行われます。